

2023年の世界経済の動向と塩ビ需要の見通しについて

2023年2月22日

塩ビ工業・環境協会

- 本年1月に発表された世界銀行（World Bank）の「世界経済見通し」によれば、2023年の世界経済の成長率（実質GDP伸び率、以下同じ）を1.7%、2024年を2.7%と予測しています。
- 塩ビの需要はインフラや住宅投資等とのかかわりが強く、世界経済の成長率と一定の相関を有していると考えられます。
- 過去10年間の相関を踏まえると、2023年の世界の塩ビ需要は2%程度伸びることが見込まれます。
- 併せて本稿では、米国、中国、インドに関する経済動向と塩ビ需要について調査しました。

1. 世界経済の動向と塩ビ需要

（1）世界経済の今後の見込み

○本年1月、世界銀行（World Bank）は「世界経済見通し」を発表しました。その中で2023年の世界経済の成長率（実質GDP伸び率、以下同じ）を1.7%、2024年を2.7%とし、前回（2022年6月）の見通しと比較すると、それぞれ1.3ポイント、0.3ポイント下方修正しました。

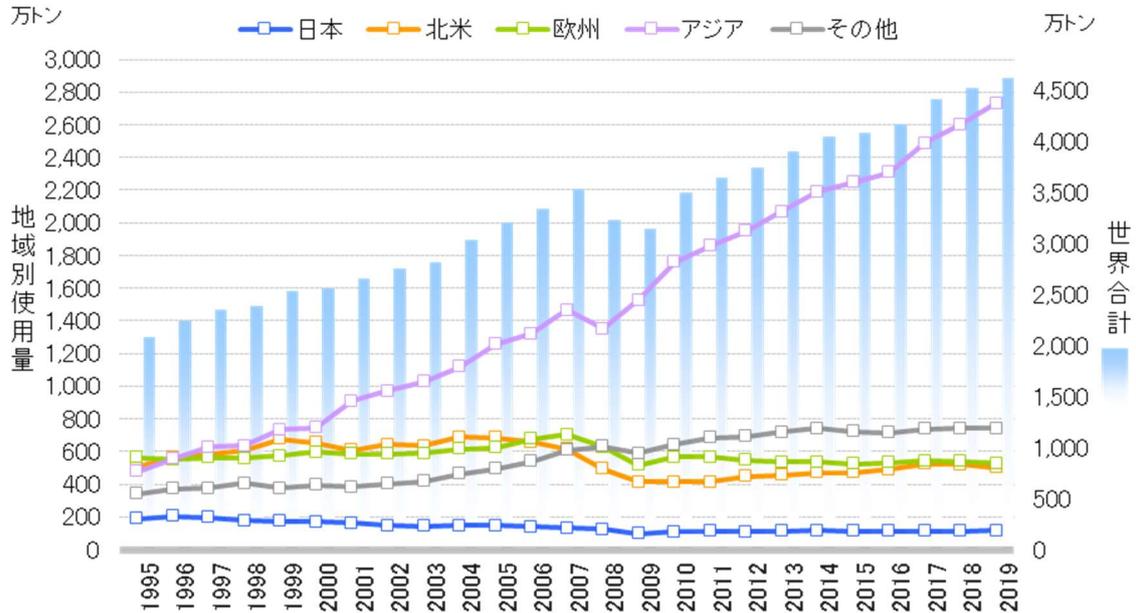
○世界銀行は、「世界経済見通し」の中で、インフレの高進、金利の上昇、投資の減少、ロシアのウクライナ侵攻による一連の混乱に直面して、世界の経済成長は急激に鈍化している、との見方を示しています。世界経済は2023年に1.7%、2024年には2.7%成長すると予測していますが、成長率の急激な落ち込みは広範囲に及び、先進国の95%、新興市場国等のほぼ70%で成長予測が下方修正されました。（注：2021年は5.9%（確定値）、2022年は2.9%（修正値））

（2）塩ビ需要の見込み

○汎用樹脂である塩ビ樹脂の需要は、インフラや住宅投資等とのかかわりが強く、世界需要はアジアを中心に過去10年間（2011年～2021年）で約1.38倍伸びました。この間の世界経済の成長率は、約1.31倍であったため、塩ビ需要の世界経済成長率弾性値は1.05と計算されます。上記（1）で述べたように2023年の世界経済の成長率が1.7%と見込まれるため、世界の塩ビ需要量は機械的に計算すると2%程度伸びるものと見込まれます。

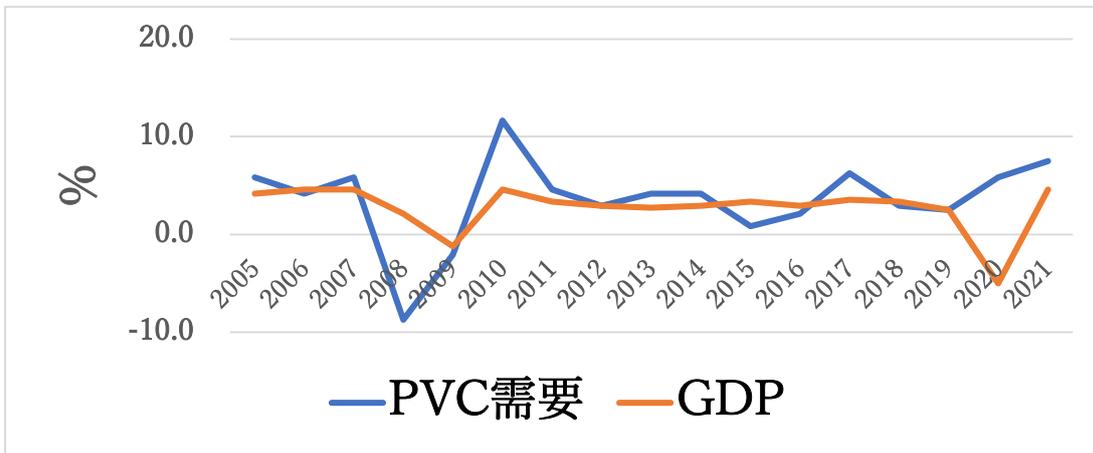
（図1-1、1-2参照）

1-1 世界の塩ビ樹脂使用量の推移



出典: 会員企業提供データをもとに VEC 作成

1-2 世界の PVC 需要伸び率と GDP 伸び率の推移 (2020年以降は予測値)



出典: 会員企業提供資料をもとに VEC 作成

2. 米国の経済動向と塩ビ需要

○前記の世界銀行の見通しによれば米国の成長率（実質 GDP 伸び率）は、2023 年は 0.5%、2024 年は 1.6%と見込まれています。

○2020 年 11 月には超党派のインフラ投資計画法案が可決され、今後 5 年間で新規支出 5,500 億ドルが実施されることになりました。5,500 億ドルの主な内訳として、道路橋梁

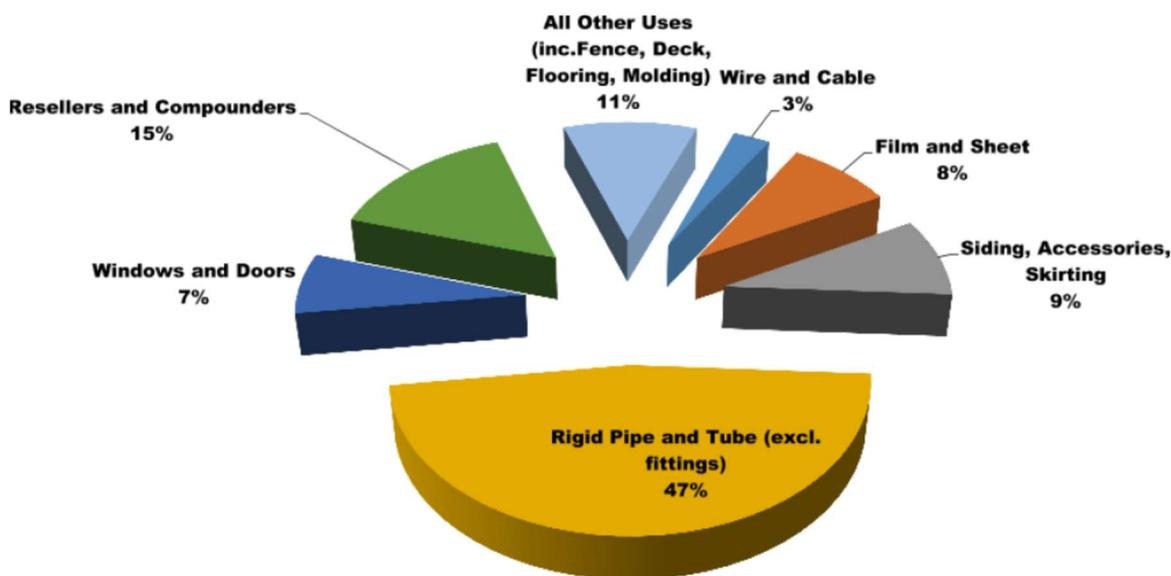
整備に 1,100 億ドル、水道インフラ整備に 550 億ドル、ブロードバンド整備に 650 億ドルを充てています。

○米国商務省が発表した昨年 12 月の住宅着工・許可件数によれば、住宅着工件数は（季節調整済）は 142.7 万件と前月 143.4 万件より若干下回り、1 年前（170.2 万件）と比べると 16%減と大幅に減少しました。また、着工件数の先行指標となる住宅着工認可件数は、12 月は対前月比 11%減の 134.2 万件でした。FRB による金融引き締め継続が見込まれる中、戸建てを中心に住宅需要の本格的な回復は当面見込めないとの、コメントが多く見られます。

○塩ビは耐久性、耐腐食性、加工性だけでなく、社会インフラに不可欠な防炎性、火災安全性等に優れているため、米国ではパイプ・継手、建材等の分野で用いられています。

○また、塩ビは絶縁性と耐久性に優れ、やわらかくしなやかで破損しにくいという特性を有しているため、電線・ケーブルの被覆材として用いられています。米国の塩ビ協会は国際会議 PVC2021 において、5G（第 5 世代移動通信システム）のインフラの整備に伴い、今後 7～10 年の間、米国の電線・ケーブルの需要は毎年 2%程度伸びると発表しております。

米国&カナダ 塩ビ樹脂の需要比率（2021 年）



（出典）米国化学工業協会

3. アジアの経済動向と塩ビ需要

(1) 中国の経済動向と塩ビ需要

○前記の世界銀行の見通しによれば中国の成長率(実質 GDP 伸び率)は、2023 年は 4.3%、2024 年は 5.0%と見込まれています。世界銀行は昨年から成長率の下方修正を行っていますが、コロナ関連の混乱と不動産部門の低迷の長期化に加え、域内の商品輸出の伸びが予測より弱いことを反映しています。

○昨年 12 月に開催された APVN (Asian Pacific Vinyl Network) において中国から出されたデータによれば、2022 年の PVC の需要量は 2004 万トンで、対前年比 1.1%増でした。2007 年の需要量がほぼ 1000 万トンだったので、過去 14 年間 (2007 年~2021 年) で約 1.98 倍になったこととなります。同期間中の中国の実質 GDP は世界銀行の統計を用いると 2.78 倍 (2007 年 : 35 兆 4500 億元、2021 年 : 98 兆 4100 億元) になったので、塩ビ需要の GDP 弾性値は 0.71 と計算されます。このため、2023 年の PVC 需要量は機械的に計算すると 3%程度の増加が見込まれます。

○PVC の 2022 年時点の供給能力は 2810 万トンと対前年比 3.6%増でした。このうち、エチレンベースが 23%、アセチレンベースが 77%となっています。

○個別分野では、パイプ・床材・建材の需要が大きく安定して伸びています。パイプについては伸び率こそ鈍化していますが、2021 年の生産量は 1660 万トンと対前年比 1.5%増でした。また、床材の輸出が増えており、生産量の 80%近くが輸出 (輸出先 : 米国、カナダ、ドイツ等) されています。近年は医薬品、自動車の分野が新規分野として着目されています。

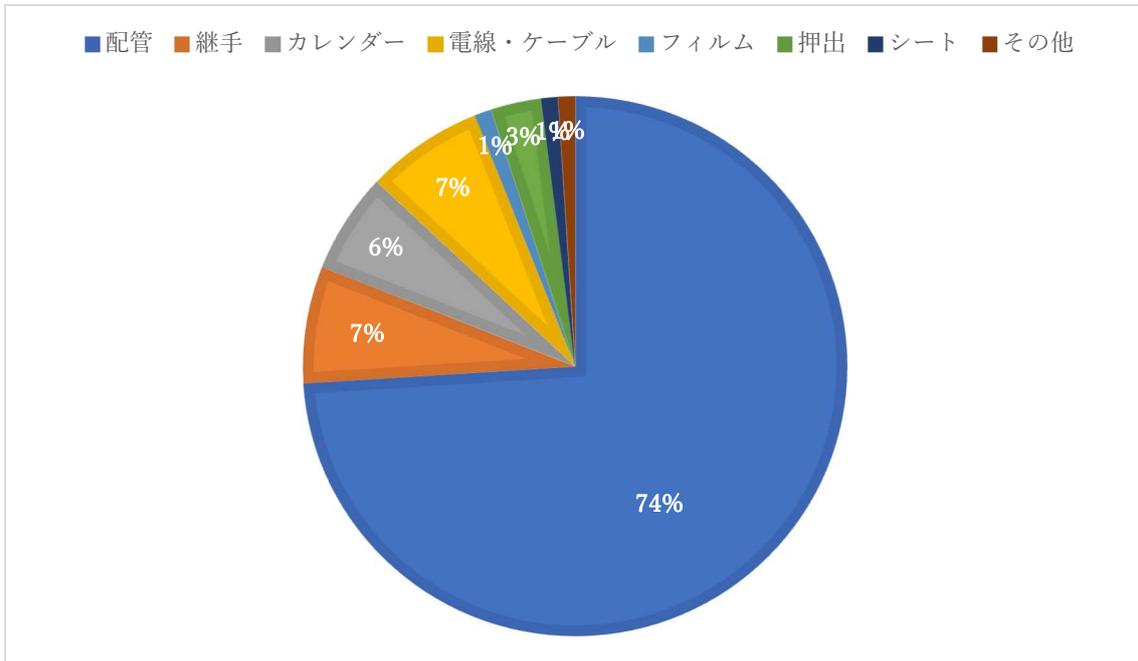
(2) インドの経済動向と塩ビ需要

○前記の世界銀行の見通しによれば 2023 年は 6.6%、2024 年は 6.1%と見込まれています。

○昨年 12 月に開催された APVN (Asian Pacific Vinyl Network) においてインドから発表されたデータによれば、2021 年の PVC の国内需要量は約 270 万トン、国内供給能力は約 150 万トンでした。個別分野では、パイプ・継手が 75%を占め、農業分野、上下水道、住宅分野等で使用されています。2021 年のパイプの需要量は 219 万トンで対前年比 8%と高い伸びを示しています。

○硬質パイプ・継手以外では、軟質電線・ケーブル、硬質押出成形品 (窓枠/建具等建材)、軟質フィルム・シート分野で今後需要量の高い伸びが見込まれると期待しています。需要の増加分は輸入で賄うことを想定しており、輸入比率は 55%まで上昇することが見込まれています。

インド 塩ビ樹脂の需要比率 (2021年)



(出典：APVN データをもとに VEC 作成)

以上